

『家庭菜園の出会いと
その苦労話』

ヨゼフ 川原 収蔵

「みこころ」の主テーマとはいささか違います。バザーにライスカレー用の玉葱を物納、そして先の教会施設改修費の一部に、野菜類の売上金を献金しておりますので、執筆依頼を真摯に受とめて、「家庭菜園との出会い」と、その苦労話」と題し、恥外聞もなく雑粗文で纏めました。私は、文学的綴方が苦手で、その資質が皆無ですので、どうぞ皆様には、本文を反転、組替えをしながら、笑読戴ければ幸いです。

まず、家庭菜園との出会いは、サラリーマン生活が終極を迎える直前の十一年前に、勤務先の近郊で、田舎住まいの友人が所有する雑草地、約十坪を借り受けたことでした。最初は、人力の助勢、農機具の借用と、丸抱え状態で、自分分けいぜい草取りか、散水程度でした。若干の趣味と興味、食卓に新鮮野菜の補給、家計への一部援助など、軽い出来心から始めた

というのが本当のところですよ。

定年延長の嘱託期間も終焉した六年前には、会合や宴席等からの開放で、忍び寄る精神的、肉体的な鈍化によるボケ防止と、予想される国の支給金低下による収入減で、家計への援助目的から、本格的な家庭菜園へ突入を余儀なくされました。苦労話になりますが、もともと私の四十数年間の職場生活は、管理業務を主体とし、関係業界の諸団体や、官庁等の懇談打合せが主な業務内容で、屋外作業といえば飛距離や方向性の定まらない球打ちに使用する打撃棒、音程が不揃の発声練習に使用する丸棒と、酒肴呑み器等が重い方で、もっぱら右手にボールペンを持つ位で、細々と定年まで過して来ました。ですから農機具やツルハシの挙げ下ろし等の肉休労働は三時間以上もすれば、翌日は即休養する位で、農作業はまったく土素人で、苦手としていました。

荒れた大地を一畳位、開拓するのに三日間位は要する程で、粗起し、雑草木の除去と焼却、大小石の取り除きを繰り返し、それでも年間

で約三十坪位を開拓しました。併せて、農機具類、肥料類、収穫野菜の収容箱等を収める木造小屋を設置し、散水用水槽置き場、野菜の整理場所、駐車場と、約六年間で約百二十坪までに拡張する事ができました。つぎに、これまで開拓してきた粗畑地を、有効に利用し、出来るだけ多種類、多数量の野菜を植栽し、欲張りな収穫をするため、乏しい頭悩、か細い肉体を酷使して、畑の環境作り、畑作業の管理と整理状況を、農業専門語を用いて順に記述いたします。

はじめに、四季を通じ栽培収穫している野菜を列記しますが、品別に葉菜類、果菜類、根菜類の三種類に大別区分して説明いたします。葉菜類は白菜、キャベツ、アスパラ、レタス、ブロッコリ、ほうれん草、小松菜、赤しそ、青しそ、春菊、チンゲン菜の十一種十三品、そして果菜類はトマト、ミニトマト、キュウリ、ゴヤ、茄子、ピーマン、ソーメンかぼちゃ、へちまかぼちゃ、西瓜、枝豆、えんどう、いんげん、オクラ、赤唐辛子の十四種十六品、最後に根菜類は大根、人参、かぶ、葱、牛蒡、

ミョウガ、蒨、玉葱、じゃがいも、里芋、さつまいも、長芋の十二種十八品で、合計で三十七種類の四十六品種もあります。私は、ほとんどの野菜類を少量ですが自家栽培し、収穫したもので食卓を色艶で、にぎやかにしています。また収穫した野菜を友人、兄弟姉妹、子供や孫達に裾分けをし、返ってくる誉め言葉が無上の喜びと励みになっていきます。そして毎年、畑近くのおばさんたちから、作物への教示指導を受け、また農業文献からの知識で、作柄についての自己反省をもとに、次の事柄に留意し、栽培から収穫までを実施しています。

- 一. 野菜類は出来るだけ農業、化学肥料を使用しないで栽培し収穫する
- 二. 落ち葉、ワラ、木くず等で堆肥を造り、元の土壌と混合して耕す
- 三. 病害虫、萎黄病、軟腐病等の防除に、連作を避けて輪作を実施する
- 四. ポット及び苗床を作成播種し、生育苗を移植し栽培する
- 五. 苗立枯病等の防除灌水を頻度に実施し、雑草除去には除草剤